

令和4年度 認定看護師教育課程修了式



令和5年3月24日茨城県立医療大学大講義室にて、令和4年度専任教員養成講習会・認定看護師教育課程 合同修了式が執り行われ、認定看護師修了生代表 田中友希さんへ修了証が授与されました。



松村学長から式辞をいただきました。修了生からは、尾鷲美帆さんが代表挨拶を行いました。



修了生答辞

修了生代表 尾鷲 美帆

(一般財団法人芙蓉協会 聖隷沼津病院)

冬の寒さも次第に和らぎ、春の温かさを感じるこの良き日、私たち修了生のために、このような素晴らしい式典を挙げて頂き、誠にありがとうございます。また、ご来賓の皆様、学長をはじめ諸先生方、関係者の皆様にご臨席を賜り、修了生一同、厚く御礼申し上げます。

私たち、16期生19名は、茨城県立医療大学認定看護師教育課程を修了します。諸先生方や実習指導者の方々のご指導、実習で多くの学びを頂いた患者様やご家族、また、教育課程へ快く送り出して下さった職場の皆様、そして、温かく見守り支えてくれた家族があって、この日を迎えることができました。修了生を代表し、私たちを支え、導いて下さった全ての方に心より御礼申し上げます。

振り返れば、今日に至るまでの1年間は、長いようで短い日々でしたが、私たちにとって有意義で貴重な時間となりました。4月からはじまった「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」における特定行為研修では、e-ラーニングを受講しての学習、集合研修においては、演習やグループワーク、実習を通して、医療と看護の視点で患者を捉え、的確でタイムリーな支援につなげる役割があることを学びました。仕事と学業の両立に困難さを感じたこともありましたが、先生方のサポートや、同じ志を持つ仲間と不安や悩みを共有し、励まし合うことで研修を終えることができました。11月からは、「摂食嚥下障害看護」の分野を学ぶため、大学に通いながら学ぶ日々が始まりました。講義や演習、グループワーク、臨地実習など、「食べる楽しみを支える」という、それぞれが抱える思いを胸に学習に励みました。模擬事例を用いた看護過程の展開におけるグループワークでは、患者にとって最善とされる看護について悩みながらも、時間をかけて話し合いを重ね、互いに学びを深めることができました。不安や緊張を抱きながら臨んだ臨地実習では、根拠に基づいた看護実践や、その成果を常に客観的な視点で評価することが重要であることを学び、また、チーム医療の中では、認定看護師として看護の立場で考えるケアと、各専門職種が考えるケアに対して調整・共有し、各チームと看護をつなぐことが役割のひとつであることを学びました。

この教育課程で過ごした時間は、自分と向き合う日々でもあり、己の力不足に苦しさを感じることもありましたが、しかし、ともに悩み、支え合った仲間たちの存在があったからこそ、乗り越えていくことができたと感じています。

今後は、それぞれが1年間での学びを摂食嚥下障害看護認定看護師として実践していくことが求められます。その中で、悩み、時には壁にぶつかることもあると思います。そのときには、教育課程での学びを振り返り、仲間たちと支え合いながら、認定看護師としての道を一步ずつ進んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご健勝・ご活躍と茨城県立医療大学摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程の更なる発展を祈念し、答辞とさせていただきます。